

人びとの仕合わせのために……天真会教団



『四国のみち』

天真

261号

平成27年9月1日発行

宗教法人 東洋最高道德学会



宗教法人 東洋最高道徳学会
医療法人 天 真 会

名誉総裁
伏見 博明 殿下

天真261号

目次

今月のことば『蓬萊溪』
南雲外史 故 長岡 悟

- 01 ——— 記紀にみる日本の心
- 04 ——— 放浪記
宗教法人 東洋最高道徳学会総代長 山内 君男
- 06 ——— 祖霊祭祀
- 07 ——— 天真会のみおしえ／天真講和
- 08 ——— 情報伝言板
- 09 ——— 中川さんのぶら～り山歩き
- 10 ——— 天真俳壇

題字：前会長 故 長岡 悟／表紙：『四国のみち』

名勝面河第一景

蓬萊溪

南雲外史 故 長岡 悟

蓬萊溪

千尋、峽底、蓬萊溪
激石、奔流、湍水、凄
雨洗、殘炎、山氣、冷
緑陰、蒙昧、青苔、蹊

かそかなる溪のひかりに苔青き
石のかしらをふみてわたりき

千尋の峽底 蓬萊溪
激石奔流湍水凄し
雨は残炎を洗って山氣冷やかなり
緑陰蒙昧たり青苔の路

過ぐる明治の末、橋本関
雪画伯が面河溪に遊び、
蓬萊溪の景勝こそ、名勝
面河の第一景なりと激賞
された、当時無名の溪谷
であったが、画伯は左岸
亀腹の岸壁に連なり立つ
奇峰を蓬萊山に準えて、
その麓の峽谷を蓬萊溪と
名付けられた。



医療法人 天真会



〒791-1112 愛媛県松山市南高井町333 TEL (089) 976-7777

- 南高井病院
- 地域連携室
- 南高井訪問看護ステーション
- 南高井ホームヘルパーステーション
- サービス付き高齢者向け住宅みなみの杜
- 南高井居宅介護支援事業所
- 南高井デイサービスセンター
- ショートステイみなみ
- 小規模多機能ホームつよし
- みなみの杜デイサービスセンター

記紀に見る

日本の



2

前会長 故長岡 悟

古事記、日本書紀は今から一三〇〇年ほど前に、大和朝廷により撰録された、日本民族の聖典ともいえるべき日本で最も古い文献です。

さて、つぎに古事記の中つ巻の冒頭に
神武天皇が日向のみみつの港を船出して、
ご東征の旅に出られたのち、畝火山の檣原
の宮で、初めて高御座にお即きになられ
ましたが、古事記はこの事については実
に簡略に記しています。

荒ぶる神どもを言向けやわし、伏ろ
わぬ人どもを退ぎ祓いて、畝火の白檣原
の宮にましまして、天の下しろしめき

とあります。

そして、日向からご即位までの年月を古

事記には十五年、日本書紀は六年と相違
はありますが、このご東征は記紀ともに
伏わぬ人どもを言向けやわしとあります。

言向けとは説得することです。い
い聞かせることであります。やわしとは
仲良くすることです。

すなわち、従わない人には、よくいい
聞かせて仲良くして、ご東征を果された
わけです。

そこで、

神武不殺

という言葉が生まれたわけでありす。

神武不殺、神武は殺さずということであ
ります。

神武天皇と申しますと、勇ましい天皇
様で従わない人をうち平げながら戦ばか
りしてご東征されたというイメージがあ
りますが、実は神武天皇は非常に平和を
愛された方です。

因に申し上げますと、大和をめざして長
い苦しい旅をされて、ようやく今の大阪に
上陸されます。めざす奈良盆地に入るに
は、すぐ目の前の小さな生駒山を越えれ
ばよいわけですが、土地の豪族、長髓彦

が抵抗するので戦いを避けて長い道のりである南の紀の国熊野に廻り険しい山地を北上して大和に入られました。

日本書紀には、ご即位についても詳しく記してありますし、国を肇められた経緯も述べております。そして有名な建国の大宣言をされるわけです。

兼六合以開都

掩八紘而為字

六合を兼ねて都を開き、八紘を掩いて家と為む、であります。

国をひとつにして都を開き、世界中の人々が一つの家族のような国をつくる、という大御心を述べられたものであります。

日本の過去の一時期、八紘為字という言葉を読み解いて、侵略の合言葉のようにいわれたことがありますが、これとはとても異なる誤った解釈であります。

世界中の人が、一つの家族のような平和で豊かな国をつくろう、いわゆる世界一家こそ、日本建国の大精神であったのであります。

そして、この建国の大御心を日本民族は歴代天皇を中心にうけつぎ伝て来たのであります。

明治天皇の御製

四方の海みなはらからと思う世に

など波風のたちさわぐらむ

とありますし、昭和天皇の昭和十五年の御製に

西東むつかわしく栄ゆかむ

世をこそいのれ年のはじめにとありますが、これも八紘為字の日本の伝統の心に因るものであります。

また、昭和天皇の定められた昭和の元号の典拠は論語の尚書という書物であります。その尚書の中に

百姓昭明

万邦協和

という言葉があります。この百姓昭明の昭と、万邦協和の和をとって昭和としました。百姓昭明万邦協和とは、人々が明るく

豊かで世界中の国々が平和で助け合うという意味であります。

昭和天皇はこの元号さながらの理想をおもちになり深く平和を愛されました。

そのご生涯のうち一時期不幸な戦争を経験されましたが、晩年は万邦協和と申しますか、平和な静かな世界の中で、おかくれになりました。なき陛下もさぞご満足であられることと畏みてお慰び申し上げる次第であります。

以上、記紀に見る日本の心、いいかえますと皇家の御心、さらにいいかえますと日本人の平和のころについて申し上げますが、昭和天皇の限らない平和を希求されたエピソードをご紹介したいと思います。

今から一四〇〇年前、七世紀の初めころ中国に唐という国がありました。その唐の三代目の皇帝に高宗という方がいました。

皇后は有名な則天武后であります。あるとき、家来のひとりが火薬をつかつ

た今でなら花火のようなものを発明して、これを武器として使うことを皇帝に進言しました。

ところが、高宗はこれを許しません。その理由は

「たしかに武器とすれば、大いに効果があるであろう、しかし、時を経ずして敵方はこれに勝る武器を工夫して使うであろうから、これを武器として使うことは許さない」

と、いったといわれます。

今から数年前、この会の事務局長河内正臣先生が、この高宗と全く同じ、昭和天皇の原爆研究を中止させた実績を発掘されて発表されたことがあります。

それは大東亜戦争も日増しに敗色濃くなったところ、ある重臣が昭和天皇に

「陛下今暫くご辛抱下さい。近くマツチ箱くらいの大きさで、敵の大型軍艦も撃沈できる原子爆弾という新兵器を研究中でございます」

と、申し上げましたところ、昭和天皇は

お喜びになるどころか、きびしい口調で「そのような爆弾をつくってはならない。即刻その研究を中止しなさい」

と、きつくお叱りになったそうであります。そして、戦局はさらに日本に不利となり、頹勢掩うべくない二十年の初めに、ある重臣が昭和天皇の御心をお慰めするつもりで、日本の原子爆弾の研究があと、ひとikiで完成できるまで進んだ事を奏上したところ、昭和天皇は

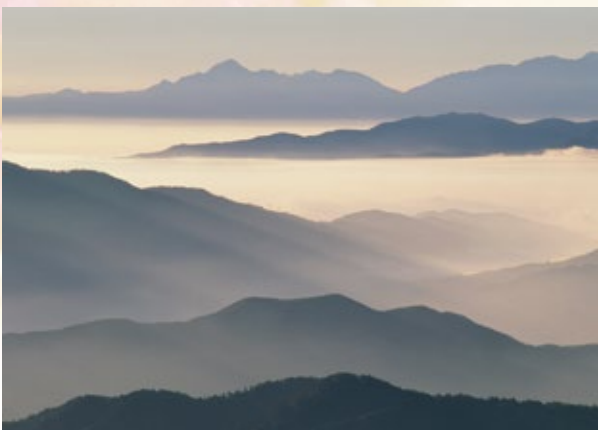
「まだ、そんな事を続けていたのか、前にも注意したことだが、その研究はすぐに止めるようにしなさい」と、このときも、前にもましてきびしくお叱りになったというのであります。

このような昭和天皇の平和を希求され、もう半世紀も前に核爆弾を阻止された尊い思召しを思うとき、最近のインド、パキスタンの世界の輦蹙ひんそくの中で相次ぐ核爆発の実験に対して、心からの憎しみを覚えるものであります。

そこで、世界で初めて原爆の惨禍をう

けたこの日本から、昭和天皇の御心を体して、核廃絶と世界平和を世界に呼びかける事を提案して、私の講演を終わります。

本稿は、広島に天皇后両陛下を迎える会、主催で広島平和記念資料館での故長岡前会長の講演の要旨を纏めたものです。



放浪記

夏越

宗教法人東洋最高道德学会

総代長 山内 君男



前回も文化祭のことは少し書いたが少し付け足しをしよう。文化祭初日は音響がうまくいかず音楽にならなかった。見苦しかったけど、次の日は音響の人によくしてもらって最高の仕上がりになった。歌も最高だった。担当の稲井圭子さんのことを少し書かせてもらおう。

2年半前にキーボードを始めて3か月くらい経った頃、11月の文化祭で「幸せなら手をたたこう」「紅葉」「故郷」を合唱するという。キーボードを練習するいい機会になるからということ。稲井が伴奏をさせてもらえることになった。

井さんが横で付きっきりで教えてくれた。

稲井さんは3歳から13歳くらいまでピアノを習っていたので教えてくれることができたのだ。自分で

弾いたほうが早いのに私に任せてくれて根気よく教えてくれて、えらかったと思う。2回目に行った時にもしっちゃかめっちゃかになる私を稲井さんが上手に誘導してくれて何とかなった。これからも文化祭があるたびに手伝って貰おうと思う。

「稲井さんよろしくお願いします」。

7月24日は天真会の夏越だ。4時過ぎにデイから帰って5時10分頃に家を出て南高井病院へ直行した。病院のロビーで娘が車を置きに行っている間5分ほど1人で待った。

車椅子で芳雲殿へ行ったら受付の準備はできていたが、私が一番乗りだった。暑い日だったが中はクーラーが効いていて、ものすごく涼しく快適だ。そのうちパラパラと人も集まってきた。一色先生や西尾先生、会長や専務も揃い、自然に先日の文化祭の話になった。みんな聞きに来てくれていたようだ。清水さんが東京へ二胡の勉強に行った時に先生に文化祭のDVDを観てもらったそうだが恥ずかしい限りだ。先生は二重奏の難しさを知っていてよく頑張っていると言ってくれたそうだ。



稲井さん

いよいよ神事が始まった。2年前よりは自分の身体が悪くなっている気がした。今日は立ったり座ったりするのが精一杯だった。玉串奉奠では2礼2拍手1礼をしないとといけないのに2礼をとばして拍手からしてしまつて後から娘に笑われた。私もいよいよ認知症の始まりだろうか。神事が終わって最後に杖をついて輪を3遍くぐった。くぐる時には「病気が治るように、みんなが元気になるように」と口の中で唱えながら回った。

終わって外に出ると夜店が真つ盛りだったが、まずそうめんを食べに食堂へ向かう。まるで戦時中の米を買う行列くらい列ができていた。その中には病院長もいた。並んでいると顔見知りの職員さんに声をかけてもらったが車椅子に乗っているため嬉しくもあり恥ずかしくもあった。そうめんは1000人分作ったそうだ。食堂は満員でテーブルも空いてなかったために先生はどんぶりをもって立ち食いをしていた。私も娘と食べた。久しぶりに食べたそうめんは冷たくて美味しかった。



その後あちこちを見て回った。子どもの遊ぶコーナーなどもあり、いろいろと工夫をしていると思った。

夜店を開いているのは職員さんたちだがユニホーム姿と違い、私服を着ているためにすぐには誰だかわからなかったが、よく見ると見知った顔ばかりだ。みんなとても活き活きとしていた。

デイのみんなのところでイカリングと焼き鳥を買って、事務のみんなのところではポップリの花を飾っている置物を買って帰った。これはリビングで私の椅子の隣に飾っている。

そういえば本田次長が「うちの息子も金魚すくいを手伝いに来るんよ」と言っていたのを思い出して金魚すくいのところへ行ってみると、小学4〜5年生くらいの男の子が手伝っていた。この子がそうだろうと思いつきながら帰途に着いた。

あくる日、デイに行ったらあれほど混雑していたものがきれいに片付けて通常の日に戻っていた。

先日ふと思い出したのだが、故長岡会長の言っていたことを書いておこうと思う。

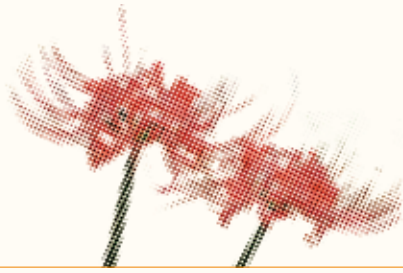
30年くらい前になろうか、例のごとく会長の書斎で話をしていた時のことであるが「君さんよ。人を動かそうと思ったなら礼儀作法がなくなっていくかん」今でも病院の中を歩くときの職員さんでも会った人に笑顔であいさつをしている。これは会長の教えが今でも生きているのだと思う。もうひとつ言っていたのは「人が自分についてきてくれる時は相手を『くくん』と君付けにしてはいけない」中学生でも「くさん」というと返事が違う。今は大勢の人が「くくん」と呼んでいるような気がする。ぜひ「くさん」と呼んでほしいものだ。



祀 祭 霊 祖

宗教法人 東洋最高道德学会

前会長 故 長岡 悟



日

本では、むかしからお盆とお彼岸にご先祖の供養を篤く行う風習があります。

お盆は盂蘭盆会と申しまして、もと餓鬼地獄におちて苦しんでいる亡者のために行う佛事が、のちには、この日に先祖たちの霊が冥府から私たち家族のもとに訪れてくるものとして先祖まつりの日となったものであります。

これと似た風習がカトリックを信仰する人々の間にもあります。

十一月二日を万霊節と申しまして、この日には煉獄で苦しむ霊魂が自由の身となり、故郷の家に帰るものとして、日本のお盆のようにご先祖の霊魂をわが家におむかえして、ご馳走を供えてお祀りをします。

彼岸は、佛典によりますと、生きているこの世を此岸、涅槃を彼岸、煩惱を中間の海や川にたとえ、波羅密を到彼岸としています。

わかり易く申しますと、人の世は苦悩に満ちています。

生きることも、死ぬことも苦しみであり、病気になることも、年老いてゆくことも、怨み憎しみのある人と会うことも苦しみならば、肉親や愛する人と別れることも苦しみです。求めて得られないことも苦しみです。それらの悩み苦しみを煩惱と申しします。

佛さまの「みおしえ」の、戒めと、

心の統一と、智慧により、煩惱の海を渡り、悟りの境地に入ることを波羅密(到彼岸)と申しします。

日本に佛教が伝来し、到彼岸は彼岸となり、死者が迷わず西方浄土にゆくための供養と考えられるようになり、そのうち先祖まつりの慣習となったものであります。

日本人は佛教伝来よりも、はるかに古くから祖先の霊に対して深い畏敬の念をもって手厚くお祀りをしてきました。

それは、伝承や古墳が証してくれるところであります。

先祖に対する愛慕の情からばかりでなく、心をこめて供養すれば、霊魂はかならず冥福を遂げるという考え方からであります。

この考え方は、中国の孔子も、父母がこの世にあるあいだ孝をつくすだけでなく、亡くなってからも充分に供養して孝行をしなければならな

いと教えています。

最近、守護神、守護霊をいうことを、よく聞きますし、これに関する刊行物も何種類か出ているようです。

守護神も守護霊も祖先の霊であります。

人が生れますと、すぐ御先祖の中から一人の霊が選ばれて、その人の一生を守護してくれます。その霊を、守護霊と申します。

体は頑健で、余り苦勞もせず、さ

ほど頭もよくない人が万事好運に恵まれて出世したり、金持ちになったりします。このような人は偉大な力を持った守護霊の加護によることが多いようであります。

また、善良で世のため、人のために能くつくす人が、とかく病気がちで、お気の毒なほどに不幸が重なることがあります。その人には、それなりに弱いご先祖の霊がついていることがあります。

そのような方は、信仰心をもって自分自身の徳を積み、同時にご先祖祀りを篤くしますと、守護霊の霊格がだんだんと高まって行きます。すると不思議に運が開けてきます。

天真会で行います「鎮魂帰神の修御法」は、一切の罪穢を祓い清め、一切の煩惱を断ち切り、清浄心になり、純一無垢な境地で神に帰一するためです。

その至純至高な境地に至りますと、霊格は神佛と全く同格に昂ります。

そうなりますと、守護霊の力の有無に関係なく日頃の願望が適えられます。

それは、真心が神に通じますので、神は守護霊を通じて、その人に冥護を垂れ給うからであります。

ご先祖さまのため許りでなく、自分の人生をより幸せにするためにも、日々ご先祖のお祀りをおろそかにせぬようにつとめましょう。



天真会のみおしえ

天真会は、日本固有の道である神道を、私たちの日常生活の中で、実践しようとするものです。

その「みおしえ」は、万物への深い感謝と愛に徹し、人間本来の知恵を重んじながら、自然の真実に帰り、あるがままの心となつて、生命の根源である神の思し召しに、由り順うというものです。

そして、みそぎといのりの力で、人生に不幸をもたらず「気枯れ」をはらひ、かむながらの心となれば、

病める人は癒え

貧しい人は豊かに

争いや瞋りは和み

もう、そこには苦しみも悩みもない、ほがらかな仕合せに満ちた天真の世界がひらけています。

天真講話

第六回 清静恬淡

東洋最高道徳学会 前会長 故 長岡 悟

Ⅱ かむながらのみちⅡ

道徳が裏へ、争棄が相つぐようになつたのは、世の中にいろいろな誘惑があるからです。五色は人の目を眩し、五味は人の口をまちがわしめます。得難き宝は、人の行いを悪くします。

人間に知恵がつき、生活に技巧を・するようになって、利欲の心が生れてきました。

それで老子は、「大道廢れて仁義あり、智慧出でて大偽あり」「民の治め難きは、其の智多きを以つ

てなり」といつています。

要するに人間が罪惡を犯すのは、利欲の心があるからです。

太古・淳朴な時代には人間が、名利の何ものであるかも知りませんでした。

無我無心であり、清静恬淡でありました。

あたかも、その心は嬰孩の状態であつたです。

その状態を天真の境地といいます。その境地に至るのを、「撲に帰る」と申します。

自然復帰であります。言い換えますと、宇宙の絶対なる本体に合一することです。

その絶対なる本体とは、天御中主神であります。

つまり、神人合一（かむながらのみち）の天真の境地に至るには清静恬淡でなければなりません。清静恬淡とは「名利の念を断ち、こざかしい智慧を棄て、素直な心」を申します。

情報伝言板

夏越の大祓い

7月24日(金)、東洋最高道徳学会4大行事の一つである「夏越の大祓い」が南高井病院内本庁芳雲殿にて、約70名の出席者のもと盛大かつ厳粛に執り行われました。

夏越の大祓いとは、一般には「輪越し」とも呼ばれ、茅で作った大きな輪をくぐって、この半年間の罪穢れを祓い去り、以降半年間の無病息災を祈願する神事です。季節の変わり目に心身の健康をお祈りするこの神事は、いにしえより受け継がれた大切な神道儀礼の1つです。

室一家のご安寧と参列者一同のご多幸ご健勝を祈願して型代を焼払う「忌火の祓い」や、神職による「輪くぐりの秘儀」、長岡節子天真会会長・他参列者一同による玉串奉奠へと神事は滞りなく進みました。祝電披露の後、散会となりました。暑い中ご出席賜りました皆様本当に有難うございました。



秋季大祭のお知らせ

今年も東洋最高道徳学会4大行事の一つである「秋季大祭」を左記の通り執り行います。

この日(10月20日)は、故長岡悟前天真会会長の誕生日にあたり、東洋最高道徳学会では、宗教法人の記念日として祭事を行います。

詳細につきましては、後日ご案内状をお送り致しますので、興味のある方は、南高井病院総務課までお問い合わせいただきますようお願い致します。

日 時…平成27年10月20日(火)

午前11時

場 所…愛媛県上浮穴郡

久万高原町大成 大成神宮

お問合せ…089-1976-7777

(南高井病院総務課)



石鎚スカイライン（土小屋）



スカイライン終点



石鎚神社



土小屋・白石ロッジ

松山から車で約2時間半のんびりとドライブして石鎚山登山口の土小屋に到着です。途中ふるさと村で清流で育った鮎や山女魚の塩焼き懐かしい田楽や焼きトウモロコシを食べてみては。

面河溪（溪泉亭・面河山岳博物館）



山岳博物館



展示物



面河溪泉亭・五色河原

石鎚スカイラインゲート手前を少し行くと、面河山岳博物館があり、石鎚山系の動物や昆虫類貴重な高山植物等が展示されており、子供たちの夏休みの自由研究に役立っています。そこから車で約5分位で面河溪泉亭に到着。名勝溪泉亭には溪谷を流れる清流と自然の岩肌が迎えてくれます。原生林の中で川遊びを楽しんでみては。

美川キャンプ（軍艦岩・上黒岩岩陰遺跡）



美川・軍艦岩



上黒岩岩陰遺跡



遺跡内部

国道33号御三戸にあるキャンプ場は、松山から車で約1時間の所にあり、BBQや川遊びができ、近くには、上黒岩岩陰遺跡があり、およそ一万年前の縄文時代早期の物で世界最古と言われている土器等が展示されています。一日ゆっくり楽しめるおすすめスポットです。



第八歩

「ふるさとイチバン」
面河溪周辺」

夏本番・海や山に涼を求めて家族や友達と出かける季節です。今回は日帰りで自然が楽しめるスポットを紹介します。森林浴や清流の川遊びそしてBBQで楽しい思い出の一日を。

天真俳壇

好川 照美

地球儀に呉須の海原涼新た
蔵元に並ぶ地酒や涼新た
秋立つや酒母培養のタンク二基

井上 恵子

ひと日旅磯鶴の鳴く島へ
僧も乗る梅雨の島へと定期船
荒梅雨やあたためなほすカレーの香

栗田 和子

古民家のもてなし灰と蚊遣香
蜘蛛の呼び合ひて鳴く杣の道
かなかなの波動か池のさざなみは

草地 たみこ

涼新た裏返し見る甑下駄
溽暑かな土足厳禁仕込蔵
試桶の小さき蛇口や送り梅雨

菰田 美佐子

句作りの助走に入りぬ梅雨シヨール
荒庭の草抜くときの順不動
梅雨寒に灯すキャンドルひとつかな

白石 房子

古書店に休日の札桜桃忌
涼しさを加へて闇の育ちをり
滝の水もろに受けをり岩不動

鈴木 るり子

伏せ置かる手こぎボートや子等を待つ
陶の里古民家に咲く鹿の子百合
梅檀の青き実落つる陶の庭

中野 八千代

涼風の一筋猫の座となりぬ
風涼し手製カップにもてなさる
水引草掲げ古民家開け放つ

松本章見

砥部焼の鉢にトマトの熟れはじむ
苗床に又も潜みし根切蟲
トマト売るそばに発掘調査中

宮本 里枝

湯釜型ポスト据え置く避暑の宿
トマト買ふ無人販売陶の里
香水を控へ酒蔵見学会

藤田 ひろむ

蜘蛛の御霊鎮めの遠ちのこゑ
蜘蛛のこゑに檜山のたたづまひ
石鎚山を遙かに早稲の穂に立ちぬ

宗教と文化 天真 (第261号)

年間購読料 3,000円

発行日 平成27年9月1日

編集人 泉田 孝治

印刷所 岡田印刷(株)

発行所 宗教法人 東洋最高道徳学会
愛媛県松山市南高井町338
TEL. 089-976-7777
FAX. 089-976-6622

=歯のことなら=



清水 歯科

松山市東方町
TEL(089)963-1441

流光とやすらぎの空間

セレモニーホール 小倉聖苑 入院・退院・転院(昼夜年中無休)
オグウ寝台車
松山市築山町5-16

大駐車場完備 120台収容

真心こめてお手伝いさせていただきます。
(株)小倉葬祭社 松山市中村2丁目7-23

☎933-3008(代)